

各 関 係 機 関 長 殿

岡山県病虫害防除所長
(公 印 省 略)

病 害 虫 発 生 予 察 情 報 に つ い て

病虫害発生予報第3号を下記のとおり発表したので送付します。

平 成 26 年 度 病 害 虫 発 生 予 報 第 3 号

平成26年 6 月 5 日
岡 山 県

予 報 概 評

作 物 名	病 害 虫 名	発 生 時 期	発 生 量
水 稻	葉いもち ヒメトビウンカ 縞葉枯病 ツマグロヨコバイ ニカメイガ	並 — — — —	やや少 少 並 少 並
ジャガイモ	疫病	やや遅	やや少
モ モ	灰星病 黒星病 せん孔細菌病 モモハモグリガ ナシヒメシンクイ カメムシ類	— 並 — — — —	少 やや少 やや少 やや少 並 多
ブドウ	べと病 うどんこ病 灰色かび病 フタテンヒメヨコバイ	並 並 並 並	やや少 やや多 やや少 やや多
トマト	疫病 灰色かび病 葉かび病	— — —	やや少 並 並
キュウリ	べと病 褐斑病 炭疽病	— 並 並	やや少 並 並
ダイコン	軟腐病 コナガ	やや遅 —	やや少 やや多
野菜全般	アブラムシ類 モザイク病 ミナミキイロアザミウマ	— — —	やや多 並 やや多
キ ク	白さび病 ナミハダニ	— —	少 並

1. 普通作物

(水 稲)

(1) 葉いもち

予報内容

発生時期 並 発生量 やや少

予報の根拠

ア. 中北部地帯の田植時期、生育概況は概ね平年並である。

イ. 5月29日の季節予報によると、6月の気温は平年並または高く、降水量は平年より少ないとされており、発病をやや抑制する条件である。

防除上の参考事項

ア. 中北部地帯においては、育苗箱施用剤による防除が普及しており、育苗箱施用剤の残効は40～60日とされている。5月中旬までの田植えでは6月下旬頃から効果が低下すると考えられるので、その後病斑がみられる場合は薬剤を散布する。

(2) ヒメトビウンカと縞葉枯病

予報内容

発生量 ヒメトビウンカ（第1世代成虫） 少
縞葉枯病 並

予報の根拠

ア. 県予察圃場における5月のヒメトビウンカ成幼虫の発生量は0頭であり、平年（170.7頭）より少なかった。

イ. 縞葉枯病については、媒介虫であるヒメトビウンカの県予察圃場における保毒虫率が17.7%と平成25年までの過去10年間（平成16～20年は欠測）の平均保毒虫率（4.6%）より高いが、虫の発生量が少ないことから平年並と考えられる。

(3) ツマグロヨコバイと萎縮病

予報内容

発生量 ツマグロヨコバイ（第1世代成虫） 少

予報の根拠

ア. 県予察圃場における5月のツマグロヨコバイ成幼虫の発生量は0頭であり、平年（49.5頭）より少なかった。

防除上の参考事項

ア. ツマグロヨコバイが媒介する萎縮病は、近年少発生が続いている。

(4) ニカメイガ（越冬世代成虫）

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおいて、5月5半旬までに平年同様誘殺を認めていない。

(ジャガイモ)

(1) 疫病

予報内容

発生時期 やや遅 発生量 やや少

予報の根拠

ア. 5月21～23日の巡回調査では、平年同様発生を認めなかった。

イ. 5月29日の季節予報によると、6月の気温は平年並または高く、降水量は平年より少ないとされており、発病を助長する条件ではない。

防除上の参考事項

ア. 発生圃場では、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

2. 果 樹

(モ モ)

(1) 灰星病 (早生種)

予報内容

発生量 少

予報の根拠

- ア. 5月21日の巡回調査によると、芽枯れ、枝病斑の発生量は平年より少ないことから、幼果への感染量も平年より少ないと考えられる。
- イ. 5月29日の季節予報によると、6月の気温は平年並または高く、降水量は平年より少ないとされており、降水量が少ない場合には発病を抑制する条件となる。

(2) 黒星病

予報内容

発生時期 並 発生量 やや少

予報の根拠

- ア. モモの生育はほぼ平年並で推移している。
- イ. 5月21日の巡回調査によると、枝上の越冬病斑密度は、平年並であった。
- ウ. 幼果における本病の潜伏期間は約35日（果実生長第2期以降は20日）とされている。5月の降水量は平年より少なかったため、幼果への感染は平年より少ないと考えられる。

(3) せん孔細菌病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

- ア. 5月21日の巡回調査では発生圃場率は7.1%で、発生圃場率は平年（9.5%）並であった。
- イ. 5月29日の季節予報によると、6月の気温は平年並または高く、降水量は平年より少ないとされており、降水量が少ない場合には発病を抑制する条件となる。
- ウ. 県南部の7月下旬のモモせん孔細菌病の発生助長要因である「昨年の8月中旬の発生ほ場数」は少なく（岡山県病害虫防除所調査）、「本年6月の降雨日数」も少ない（広島地方气象台）とされている。

(4) モモハモグリガ (第2世代幼虫)

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

- ア. 赤磐市のフェロモントラップによると、5月1～5半旬の誘殺数は2頭で、平年（22.8頭）より少なかった。
- イ. 5月21日の巡回調査によると、発生圃場率は3.6%で平年（7.8%）より低かった。
- ウ. 5月29日の季節予報によると、6月の気温は平年並または高いとされており、発生をやや助長する条件である。

(5) ナシヒメシンクイ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

- ア. 赤磐市のフェロモントラップによると、5月1～5半旬の誘殺は無く平年（4.1頭）より少なかった。
- イ. 5月21日の巡回調査によると、心折れの発生程度は低いものの発生圃場率は10.7%で平年（3.6%）よりやや高かった。
- ウ. 5月29日の季節予報によると、6月の気温は平年並または高いとされており、発生をやや助長する条件である。

(6) カメモムシ類

予報内容

発生量 多

予報の根拠

ア. 赤磐市の予察灯における5月1～5半旬のチャバネアオカメモムシの誘殺数は10頭で、平年(36.1頭)よりやや少なかったものの、フェロモントラップでの誘殺数は765頭で、平年(316.9頭)より多かった。

イ. 前年のスギ・ヒノキ花粉飛散数を利用した予測式によると、本年4～7月の予察灯への飛来数は、チャバネアオカメモムシは赤磐市が1175.7頭(平年496.5頭)で平年より多く、津山市が361.5頭(平年327.5頭)で平年並と予想される。クサギカメモムシは赤磐市が53.9頭(平年16.9頭)、津山市が441.6頭(平年198.0頭)でともに平年より多いと予想される。

ウ. 病害虫発生予察注意報第1号(平成26年4月24日発表)参照。

(ブドウ)

(1) ベと病

予報内容

発生時期 並 発生量 やや少

予報の根拠

ア. ブドウ(ピオーネ)の生育(開花期)はほぼ平年並で推移している。

イ. 県予察圃場のベリーA(無被覆栽培)において、5月28日まで発生を認めていない(平年:6月5日)。

ウ. 5月21日の巡回調査では、平年同様発生を認めなかった。

エ. 5月29日の季節予報によると、6月の気温は平年並または高く、降水量は平年より少ないとされており、降水量が少ない場合には発病を抑制する条件となる。

(2) うどんこ病

予報内容

発生時期 並 発生量 やや多

予報の根拠

ア. ブドウ(ピオーネ)の生育(開花期)はほぼ平年並で推移している。

イ. 5月の日照時間は平年より多く、本病の発生を助長する気象条件であった。

ウ. 5月29日の季節予報によると、6月の気温は平年並または高く、降水量は平年より少ないとされており、降水量が少ない場合には発病を助長する条件となる。

(3) 灰色かび病

予報内容

発生時期 並 発生量 やや少

予報の根拠

ア. ブドウ(ピオーネ)の生育(開花期)はほぼ平年並で推移している。

イ. 5月29日の季節予報によると、6月の気温は平年並または高く、降水量は平年より少ないとされており、降水量が少ない場合には発病を抑制する条件となる。

(4) フタテンヒメヨコバイ

予報内容

発生時期 並 発生量 やや多

予報の根拠

ア. 5月21日の巡回調査によると、発生程度は発生程度は低いもの被害発生圃場率は16.7%で、平年(5.8%)よりやや高かった。

イ. 5月29日の季節予報によると、6月の気温は平年並または高く、降水量は平年より少ないとされており、発生を助長する条件である。

3. 野菜

(トマト)

(1) 疫病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 県予察圃場（5月12日定植）では、発生を認めていない。

イ. 5月22～23日の巡回調査によると、発生圃場率は0%で平年（3.4%）より低かった。

ウ. 5月29日の季節予報によると、6月の気温は平年並または高く、降水量は平年より少ないとされており、気温が高い場合には発病を抑制する条件となる。

(2) 灰色かび病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 県予察圃場（5月12日定植）では、発生を認めていない。

イ. 5月22～23日の巡回調査によると、発生圃場率は66.7%で平年（32.9%）より高かった。

ウ. 5月29日の季節予報によると、6月の気温は平年並または高く、降水量は平年より少ないとされており、気温が高い場合には発病を抑制する条件となる。

(3) 葉かび病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 県予察圃場（5月12日定植）では、発生を認めていない。

イ. 5月22～23日の巡回調査によると、発生圃場率は11.1%で平年（24.4%）より低かった。

ウ. 5月29日の季節予報によると、6月の気温は平年並または高く、降水量は平年より少ないとされており、発病を助長する条件ではない。

防除上の参考事項

ア. 本病の初発生時期（雨除け栽培トマトでは6月下旬～7月上旬）と病勢進展時期（7月下旬～8月上旬）に効果の高い殺菌剤を予防散布する防除体系は、葉かび病の防除に有効である。

(キュウリ)

(1) ベと病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 5月22～23日の巡回調査によると、発生圃場率は20.0%で平年（31.0%）よりやや低かった。

イ. 5月29日の季節予報によると、6月の気温は平年並または高く、降水量は平年より少ないとされており、気温が高い場合には発病を抑制する条件となる。

(2) 褐斑病

予報内容

発生時期 並 発生量 並

予報の根拠

ア. 5月22～23日の巡回調査によると、発生圃場率は20.0%で平年（20.5%）並であった。

イ. 5月29日の季節予報によると、6月の気温は平年並または高く、降水量は平年よ

り少ないとされており、気温が高い場合には発生を助長する条件となる。

4. 花 き

(キ ク)

(1) 白さび病

予報内容

発生量 少

予報の根拠

ア. 5月22～23日の巡回調査では発生を認めず、平年（発生圃場率：29.0%）より低かった。

イ. 5月29日の季節予報によると、6月の気温は平年並または高く、降水量は平年より少ないとされており、気温が高い場合には発病を抑制する条件となる。

(2) ナミハダニ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 5月22～23日の巡回調査では発生を認めず、発生圃場率は平年（3.2%）よりやや低かった。

イ. 5月29日の季節予報によると、6月の気温は平年並または高く、降水量は平年より少ないとされており、気温が高い場合には発生を助長する条件となる。

この情報は、岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。アドレスは、
http://www.pref.okayama.jp/soshiki/kakuka.html?sec_sec1=239 です。